

日本の民間信仰と祭り衣装の関係性に関する研究

A Study on the Relationship between Japanese Folk Religions and Festival Costumes

荒井柚帆
指導教員 菊池司

東京工科大学 メディア学部 メディア学科 菊池研究室

キーワード：祭, 衣装, 着物

1. はじめに

本研究では日本の代表的な祭りを地域ごとに分類し、その衣装がどの時代の着物を踏襲しているか、どのような意味合いがあるのか等を調査し、共通点を探っていく。また、衣装という面で祭り文化に注目することで、新たな切り口でその地域の民間信仰を学び地域への関心を高めていく。

2. 検証方法

日本の代表のお祭りを抜粋し比較した。Web サイト、書籍 [1~5] から日本の代表的な 10 の祭りをリストアップし実施場所・日程・目的・実施内容・衣装・衣装の由来の以下の項目に分けて調査を行った。

- ① 祭りの実施地域
- ② 祭りが実施される日程、期間
- ③ 祭りの目的
- ④ 祭りの実施内容
- ⑤ 祭りに用いられる衣装
- ⑥ 祭りに用いられる衣装の由来

ただし祭衣装とは祭りの核となる中枢部分の人が見つける衣装を指す。

また、日本の代表的な祭りは以下とする。

- ・京都祇園祭 ・高円寺阿波踊り
- ・青森ねぶた祭 ・京都葵祭
- ・金刀比羅大鷲神社 酉の市 ・秩父夜祭

・博多祇園山笠 ・岐阜県 高山祭

・大阪岸和田だんじり祭 ・秋田竿燈まつり

その上で弥生時代から明治時代の衣服の特徴に分類し、どの時代の影響を強く受けているのか、また、地域ごとの共通点等を探る。

3. 検証結果

表1 各祭りの分類図 [1~5]

	京都祇園祭	高円寺阿波踊り
開催地域	京都八坂神社	高円寺
開催時期	7.3~7.31	毎年8月下旬 最終の土曜・日曜
目的	疫病退散	民衆娯楽・復興
実施内容	1か月にわたる祭事 山鉦・宵山・巡行	阿波踊り
衣装	肩衣長袴・振袖?袴?	山笠・法被
衣装の由来	不明	優雅で妖艶
衣装の時代	鎌倉時代	江戸時代

	青森ねぶた祭	金毘羅大鷲神社酉の市
開催地域	青森市内	金刀比羅・大鷲神社
開催時期	8.2~8.7	11月に2~3回
目的	無病息災・灯籠流し	商売繁盛
実施内容	灯籠流し	縁起熊手の販売
衣装	ハネト・花笠	江戸前の現代的な解釈が 施されたスタイル
衣装の由来	動きやすい衣装	不明
衣装の時代	江戸時代	江戸時代

	秩父夜祭	博多祇園山笠
開催地域	秩父神社	櫛田神社
開催時期	宵富:12.2・大祭:12.3	7.1~7.15
目的	伝承祭祀	疫病退散
実施内容	屋台と鉾の巡行	山笠を担いで駆け抜ける 追い山
衣装	束帯	水法被・長法被
衣装の由来	伝承	動きやすい服 鉢巻の色によって役職が わかる
衣装の時代	平安時代	江戸時代

	岐阜県高山祭	岸和田だんじり祭
開催地域	春:日枝神社 秋:桜山八幡宮	大阪府岸和田市
開催時期	春:4.14~4.15 秋:10.9~10.10	地区ごとに9月と10月に分 かれて開催
目的	五穀豊穡・家内安全 無病息災	五穀豊穡
実施内容	屋台引き回し・からく り奉納	山車・だんじり引き回し
衣装	袴姿	法被
衣装の由来	警固	作業服
衣装の時代	江戸時代	江戸時代

	秋田竿灯まつり	京都葵祭
開催地域	竿燈大通り	京都御苑~下賀茂神社か ら上賀茂神社
開催時期	8.3~8.6	5月初旬から15日
目的	五穀豊穡・無病息災	社頭の儀
実施内容	竿燈を差し手が持ち上 げて練り歩く	平安装束をまとして練り 歩く路頭の儀
衣装	法被	唐衣・束帯
衣装の由来	作業服	伝承
衣装の時代	江戸時代	平安時代

以上のように分類を行った(表1)。衣装が影響を受けている時代の項目は各衣裳の特徴を抽出し分類を行った。法被やはちまきなど現代で多く見られる祭りの衣装は江戸時代の大工の衣装を踏襲しているため江戸時代として分類したが、現代での法被の位置づけとしては仲間意識や地域の団結力などの目的で用いられていることが多かった。同じデザインのものを作りやすい材質であることや管理の容易さ、動きやすさなどが現代でも多く用いられる要因なのではと考えた。

また、平安時代、鎌倉時代など動きづらく格式高い着物は伝承のために用いられていることが多かった。現代的な信仰ではなく実際にその当時のやり方で神への信仰を体現すること、奉納を行うこ

とが重要視されているのだと考えた。対して元々作業着として用いられていた衣装が、現代の祭衣装として解釈されている祭は現代的で誰でも参加できる地域交流的な意味が深い祭になっているのではと考えた。

4. 今後の課題

分類を行った上でこれらの祭りの目的と衣装にどのような関連性があるのか、影響を受けている衣装がどうして今の時代も着続けられているのか調査する必要があると考えた。晴れ着としての着物が目的によってどのような変遷を遂げてきたのか調査したい。

5. 参考文献

[1] 久保田裕道(著)日本の祭り 解剖図鑑
エクスナレッジ出版社 2018.11.3 発行

[2] 京都市 京都観光オフィシャルサイト
『祇園祭「どんな祭?」』
<https://ja.kyoto.travel/event/major/gion/>
7.30 閲覧

[3] 着物の歴史をたどる~縄文時代から令和
まで~ 2021.07.21 更新 [https://xn--
kitsukeschool-hm6g.jp/basic/564/](https://xn--kitsukeschool-hm6g.jp/basic/564/) 7.30 閲覧

[4] 祇園祭長刀鉾お稚児さんに密着
2016.07.26 更新
[https://www.youtube.com/watch?v=P_9vHU5EdpE&
t=7s](https://www.youtube.com/watch?v=P_9vHU5EdpE&t=7s) 7.30 閲覧

[5] NPO 法人東京高円寺阿波踊り振興協会 東
京阿波踊り <http://www.koenji-awaodori.com/>
7.30 閲覧